

災害時のボランティア受け入れは 新病院の医療スタッフの充足は



栗山香代子議員

先日、ある書籍を注文するとき、タイトルを告げると、「ジャンルは何ですか」と聞かれてしまいました。その本は『透明マントを求めて』。ドラえもんやハリポッターの話ではなく、東京工業大学助教の雨宮智宏さんの著書で、若手研究者に研究の支援をする民間事業の採択を受けたものです。目に見える光を含め電磁波の波を使い、物質を反射しないようにすること、目に見えなくするという、夢のような話です。

この技術を使い、地震波を遠回りさせる装置の開発が進められているそうです。建物の周りに埋め込めば地震が発生しても地震波が建物に伝わらないので、揺れを抑えることができるということです。それが現実のものとなるかどうか、待っている間にも、地震が起きるかもしれません。

昨日もこの原稿を書いている間に地震が起きました。ちょうど6年前の3・11を思い出しました。議会の一般質問の3日目が終わり、市役所にいる全員が中央公園に避難しました。被災した方、津波で家を流された方からのちに手紙をいただきました。「千年に一度の災害が、まさか自分の身に起こるとは思ってもみなかった」。それが何年たっても心に突き刺さっています。

いつ起きるかわからない災害。

災害時対応について

災害が発生したときに必要なこととして、自助・共助・公助が言われます。それらに加え、被災地で力になるのが、ボランティアによる外からの様々な支援です。厚木市ではボランティアの受け入れがどうなっているのか伺います。

現状と課題は

市長 災害が発生した場合には、地域防災計画に基づき、災害対策本部を設置し、被害状況の全容を把握するとともに、被災者の救命、救助に全力を尽くします。

また、情報の発信や避難所の開設、被災状況に応じた応援要請を、県や自衛隊、防災姉妹都市へ行うなど、多面的な対応を図ります。

さらに、各地域におきましては、自主防災隊が中心となり、自助、共助を実践していただくこととなります。

ボランティアの受け入れ体制は整っているか

市長 受け入れにつきましては、平成24年4月に社会福祉協議会と協定を締結し、災害救援ボランティア支援センターを開設する体制を整えております。

なお、総合防災訓練において、社会福祉協議会を始め、各種ボランティア団体と協働し、ボランティア支援センターの設置・運営訓練を実施しております。

厚木市立病院について

栗山議員 平成15年に厚木市立病院がスタートしてから15年目を迎える



今後、新病院の機能をいかし、経営理念である市民の皆様へ信頼される医療を提供してまいります。

オープン後に見えてきた課題は何か

病院事業管理者(院長) 新病院につきましては、全ての医療機能が整い、特に、二次救急医療や小児周産期医療を拡充するとともに、専門性の高い最新の医療を提供できる環境を整えました。

また、防災面では、建物全体を免震構造とするなど、災害拠点病院にふさわしい機能を備えました。病院職員の採用につきましても、新病院の建設計画時に、医師、看護師、医療技術部門における職員の必要数を検討し、策定した採用計画に基づき、おおむね計画どおりに、採用することができております。

現在は、外構工事中で、駐車場の狭隘のため、利用者の皆様に御迷惑をおかけしておりますが、工事完成後は、利便性を大幅に向上させることができます。

今週の活動から



3月4・5日と各地で公民館まつりが開かれました。南毛利公民館では開会式後の南毛利音頭を私たちも一緒に踊りました。相模人形芝居長谷座の三番叟、踊りや歌

などが次々と発表されました。また、書道や編み物、生け花など文化作品展、健康づくりコーナー、模擬店等々も。お茶会には子どもたちが見よう見まねでお茶に親しんでいました。(釘丸久子議員)



2月議会には厚木市道の認定・廃止の議案が8件出ています。多くは宅地開発によるものです

が、払い下げや第2東名関連もあります。3月4日(土)、まつかげ台、棚沢、妻田西、温水西、岡田と全路線を現地調査してきました。写真は岡津古久の特定開発事業に伴うものです。

(栗山香代子議員)

3月の法律相談

3月23日(木) 1時半～
前日迄の連絡を!